

# ◇学長表彰に係る学生の学業並びに研究活動等の功績

<個人>

【大阪公立大学】

氏名 Name	ふりがな Furigana	学部・学科 Faculty・Department 学域・学類 College・School 研究科 Graduate school	推薦理由・成績（功績の内容） Reasons for Recommendation	【学会等における受賞等の場合に記入】 国際大会または国内大会 International competition or National competition ／（開催年月日 date）	その他参考事項 Others <small>※学術誌であれば、タイトルや大会の規模・概要などを記載してください If it is an academic journal, please include the title, scale and outline of the conference, etc.</small>
川口 周一郎	かわぐち しゅういちろう	現代システム科学研究科	日本社会心理学会において優れた研究計画を提出した者に贈られる「若手研究者奨励賞」を受賞した。 ・ 標題「効果的利他主義の心理的メカニズム：寄付効果の認識と共感に着目して」		日本社会心理学会は2023年4月1日現在1570名が籍をおく学術団体です。日本社会心理学会若手研究者奨励賞は、書類選考により優れた研究計画を提出した応募者に贈られる賞です。2023年度は21件の応募があり、うち8名がこの賞を受賞しています。
永延 佳那子	ながのぶ かなこ	文学研究科	永延佳那子さんは、大学院入学後の2年間のうちに急速に研究能力を向上させ、着実にその成果を積み重ねてきました。特筆すべきは、2023年度日本社会心理学会若手研究者奨励賞を受賞している点です（日本社会心理学会は、約1580名の学会規模で、2023年度同賞受賞者は8名）。博士前期課程のうちに受賞していることから明確にわかるとおり、永延さんの研究テーマの斬新さとその計画の手堅さは、表彰に値するものと思われます。さらに、国内学会や国際シンポジウムの場合において英語で自らの研究成果を発表しようとしている点も推薦理由に該当します。以上のことから、永延さんを学長表彰候補者として推薦いたします。	2023年度日本社会心理学会若手研究者奨励賞を受賞（2024年1月18日） ( <a href="https://www.socialpsychology.jp/award/wakate/">https://www.socialpsychology.jp/award/wakate/</a> )	日本社会心理学会は、約1580名の学会規模で、2023年度の若手研究者奨励賞受賞者は8名
阿山 健人	あやま たけと	文学研究科	阿山氏は仏教文学会2023年度大会（2023年9月3日、於同志社大学）において「『七天狗絵』興福寺巻における貞慶の言説—講式と縁起叙述—」と題する口頭発表を行い好評を博した後、「『七天狗絵』の縁起叙述における講式利用—興福寺巻と貞慶の言説—」と改題して論文化、国語国文学分野の代表的な査読付き月刊学術誌『国語国文』（京都大学文学部国語学国文学研究室編集、臨川書店刊）に投稿した結果、同誌第93巻第6号（2024年6月）に巻頭論文として掲載された。 本論文は、鎌倉後期の通世僧によって制作されたとおぼしい絵巻『七天狗絵』の興福寺巻の縁起叙述に、鎌倉前期の律僧貞慶の講式テキストが依拠資料として参照されていたことを初めて実証的に明らかにしたものである。この成果は『七天狗絵』の成立環境の解明に資するとともに、従来の文学史では既存の縁起から講式テキストへと言説が継承されていくものと想定されていたところを、その逆の流れも存在することを明らかにし、中世の縁起叙述が縁起から講式へ、講式から縁起へという双方向的な往還によって形成されていた実態を示した点で高い評価を受けている。		・ 仏教文学会 時代の枠を越えて仏教文学に関するテーマについて発表、議論を行う全国規模の学会。大会は年1回開催。 参加者数は150名程度。発表者数は6名前後。  ・ 学術誌『国語国文』 国語国文学の分野では『国語と国文学』（東京大学国語国文学会編集、筑摩書房刊）と並ぶ査読付き月刊学術雑誌。『国語と国文学』に比し、さらに実証性の高い論文が掲載される傾向にある。同誌の巻頭論文は、当該号所収論文の中でもっとも優秀と認められたものが選定される。
最明 新太	さいみょう あらた	情報学研究科	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「若手研究者イノベーション賞」を受賞した。 ・ 標題「健康な葉画像のみを学習に用いたモデルに基づくブドウの葉の病変検出」 ・ 内容「ブドウ栽培において、果実の生産量や品質向上のため、薬剤散布による葉の病気の早期治療が重要である。現在、葉の病気は作業者が広大な圃場を巡回して発見しており、負荷が大きい。そこで、本研究では、作業者の負担軽減を目的として、ブドウ圃場での薬剤散布に関わる作業の自動化のための、画像認識に基づいた葉の病変検出を提案する。圃場で取得されるデータは、健康な葉と比較して病気の葉が大幅に少なく、データに大きな偏りが生じる。一般的な分類手法では、各クラスのデータ数に偏りが無いことを仮定しているため、分類手法を葉の病変検出に適用すると、正しく病変が検出されない。そこで本研究では、葉の病変検出に異常検知を導入する。異常検知は、収集したデータのうち、大多数と異なる状態のものを異常と仮定して検出するもので、病気のデータが不足していても十分な健康なデータがあれば、病変の検出ができる。本研究では、深層学習ベースの異常検知手法であるPatchCoreを用い、学習した健康な葉のモデルからどの程度隔たりがあるかを評価することで、葉の病変の有無を検出する。実験の結果、健康な葉と病気の葉を精度良く識別することに成功した。」 ・ 評価を受けた点「研究内容が、実社会での活用、事業化およびイノベーションの可能性が高く、農業情報学分野の発展に寄与する点が評価を受けた。」	農業情報学会2024年度年次大会 (2024/5/25-26)	【大会概要】 年に1回、農業情報分野に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会 【規模】 参加者数：約150人、発表数：74件、受賞者数：2名
小西 豪	こにし たける	情報学研究科	①右記の国際学会（①に記載）に提出した論文が、査読のうえ、優れた内容であると評価を受け「Best Paper Awards」(最優秀論文賞)を受賞した。 ・ 標題「Effects of Complexity Enhancements on the Search Performance of Multiobjective Fuzzy Genetics-based Machine Learning」 ・ 内容：代表的な説明可能AIの1つであるファジィ識別器を設計する機械学習モデルに改良を加え、より識別性能の高いファジィ識別器を獲得することができた。既存の他手法と比較することにより、その有効性を示した。  ②右記の国内学会（②に記載）において行った発表が、優れた内容であると評価を受け、「優秀発表賞」を受賞した。 ・ 標題「アーカイブ個体群を用いた2段階ファジィ遺伝的機械学習の検討」 ・ 内容：代表的な説明可能AIの1つであるファジィ識別器を設計する機械学習モデルに改良を加え、より多様なファジィ識別器を獲得することができた。従来手法と比較することにより、その有効性を示した。  ③右記の国内学会（③に記載（※②に記載した学会と同じ学会です））において行った発表が、優れた内容であると評価を受け、若手研究者の研究を奨励するため、日本知能情報ファジィ学会主催で行われる対象年度の学会で発表した会員に贈呈される「2024年度日本知能情報ファジィ学会奨励賞」を受賞（内容は②と同様）	①The 20th World Congress of the International Fuzzy Systems Association (IFSA 2023)/ (2023/8/20-2023/8/23)  ②第39回ファジィシステムシンポジウム(FSS2023)/ (2023/9/5-2023/9/7)  ③第39回ファジィシステムシンポジウム(FSS2023)/ (2023/9/5-2023/9/7)	①【学会概要（IFSA2023）】 2年に1回、ファジィ理論とその応用に関する研究成果の発表、議論を行う国際学会です。国際ファジィシステム学会(IFSA)が主催 【規模（IFSA2023）】発表数：約100件 受賞者数(「Best Paper Awards」(最優秀論文賞))：3名  ②【学会概要（FFS2023）】 1年に1回、ファジィ理論をはじめとする知能情報システムに関する研究成果の発表、議論を行う国内学会です。日本知能情報ファジィ学会(SOFT)が主催しています。 【規模（FFS2023）】 発表数：約200件、受賞者数(「優秀発表賞」)：24名  ③【2024年度日本知能情報ファジィ学会奨励賞概要】 対象：日本知能情報ファジィ学会主催で行われる対象年度の学会で行われた発表、受賞者数(「2024年度日本知能情報ファジィ学会奨励賞」)：約2,3名
内田 時央	うちだ ときお	情報学研究科	学会名：第22回情報科学技術フォーラム（FIT2023） 表彰名：FIT論文賞 論文タイトル：錯乱肢の生成による英語多肢選択問題の適応的難易度調整 共著者：内田 時央、パーゴ アンドリュウ、黄瀬 浩一 表彰日：次年度（2024年度中） 表彰者：未定 非推薦者は、知能メディア処理研究室（指導教員：黄瀬浩一）に所属し、教育工学に関する研究を行い、上記の通り2023年9月6日～8日に大阪公立大学中百舌鳥キャンパスでハイブリッド開催された第22回情報科学技術フォーラム（FIT2023）において「FIT論文賞」を受賞した。FIT論文賞は選奨セッション（FIT2016までは査読付き論文）の中から特に優秀と認められた論文に贈呈される賞であり、今年は7件の論文のみが受賞した。その業績は顕著であるため推薦する。	第22回 情報科学技術フォーラム/ (2023/9/6)	学会と賞の内容についてのサイトは以下の通りです。 <a href="https://www.ipsj.or.jp/award/fit_ronbun.html">https://www.ipsj.or.jp/award/fit_ronbun.html</a> また大学ホームページ上での掲載は以下の通りです。 <a href="https://www.omu.ac.jp/i/info/news/entry-08910.html">https://www.omu.ac.jp/i/info/news/entry-08910.html</a>
味本 健祐	あじもと けんすけ	情報学研究科	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「プレゼンテーション賞」を受賞した。 ・ 標題「動的環境下でのファジィ識別器におけるDon't Careルールの影響」	第31回インテリジェント・システム・シンポジウム/ (2023/9/7)	【大会概要】 ファジィ、AI、ニューラルネットワークをはじめとした、各種ソフトウェア手法の基礎から応用までを含む先端的研究発表を行う全国規模の学会（年1回） 【規模】 発表数：87件、受賞者数：4名 【共著者】 山本 悠真、中島 智晴、楠木 祥文



石川 裕也	いしかわ ゆうや	情報学研究科	<p>右記の学会において行った発表が優れた内容であると評価を受け「IEEE GCCE 2023 Excellent Student Postar Award, Silver Prize (銀賞)」を受賞した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 題名：A Method for Removing Shadows and White-Outs on QR Code Images by Deep Learning</li> <li>・ 内容：本研究はQRコードにかかる影やハレーションを除去するための深層学習モデルを提案し、その有効性を検証している。</li> <li>・ 評価を受けた点 人の目には完全に黒または白になってしまったQRコードから元のコードを生成できる点が高く評価された。</li> </ul>	2023 IEEE 12th Global Conference on Consumer Electronics(2023/10/10)	<p>【大会概要】 米国電気電子学会IEEEのConsumer Electronics Society主催の国際会議。</p> <p>【規模】 発表数：650件（ポスター発表含む）、 ポスター発表：141件、 学生ポスター発表受賞：6(金1銀1銅1奨励賞3)</p>
谷口 弘通	たにぐち ひろみち	情報学研究科	<p>右記の学会において行ったポスター発表が、最も優れた発表であると評価を受け「最優秀ポスター賞」を受賞した</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標題「ベンに搭載された慣性センサにより得られる情報を利用したテスト採点促進システムの検討」</li> <li>・ 最も優れていると認められたポスター発表に贈られる賞</li> <li>・ 評価委員および一般聴講者による投票にて、全ポスター発表の中で最も高く評価された。</li> </ul>	第31回マルチメディア通信と分散処理ワークショップ (2023/10/25-27)	<p>【大会概要】 年に1回、情報処理学会マルチメディア通信と分散処理 (DPS) 研究会主催で開かれ、高速通信、分散コンピューティング、マルチメディア情報通信、知的通信、プロトコル、分散協調などの研究分野に関する研究者が集い、研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会。</p> <p>【規模】 参加者数：約100人 発表数：ポスター発表21件（ほかに一般論文発表21件、デモ発表6件） 受賞者数：1名</p>
江本 裕紀	えもと ひろり	情報学研究科	<p>右記の学会において行ったポスター発表が、特に優れた発表であると評価を受け「優秀ポスター賞」を受賞した</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標題「2地点に対する害獣監視の高品質化を目的としたRCMSにおけるロープの設置手法の検討」</li> <li>・ 特に優れていると認められたポスター発表に贈られる賞</li> <li>・ 評価委員および一般聴講者による投票にて、全ポスター発表の中で高く評価された。</li> </ul>	第31回マルチメディア通信と分散処理ワークショップ (2023/10/25-27)	<p>【大会概要】 年に1回、情報処理学会マルチメディア通信と分散処理 (DPS) 研究会主催で開かれ、高速通信、分散コンピューティング、マルチメディア情報通信、知的通信、プロトコル、分散協調などの研究分野に関する研究者が集い、研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会。</p> <p>【規模】 参加者数：約100人 発表数：ポスター発表21件（ほかに一般論文発表21件、デモ発表6件） 受賞者数：6名</p>
下田 萌喜	しもだ もえき	情報学研究科	<p>右記の学会において行ったポスター発表が、優れた内容であると評価を受け「最優秀プレゼンテーション賞」を受賞しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標題「サッカー分析のためのログ可視化システム」</li> </ul>	人工知能学会 社会におけるAI 研究会 第47回研究会/ (2023/11/4)	<p>【大会概要】 RoboCupに関する研究成果を発表する世界大会の年次研究会</p> <p>【規模】 既に世界的に選抜された発表数：5件、受賞者数：2名</p> <p>【共著者】 中田 光紀、畠山 響、楠木 祥文、中島 智晴、秋山 英久 (岡山理科大学)</p>
保久良 允彦	やすくら みつひこ	情報学研究科	<p>右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け、「ELECTRONICS JOURNAL MDPI BEST PAPER」を受賞した</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標題「Computational Cost Reduction For MobileViT with Token Merging」</li> <li>・ 内容：画像認識用深層学習モデルにおいて、計算コスト低減のために画像パッチのトークン併合による内部データ量の削減を行った。</li> <li>・ 評価を受けた点：従来、CNN、トランスフォーマ併用モデルにおいてトークン併合による計算量削減は困難であったが内部モデルの改良によって適用可能なモデルを構築したこと。</li> </ul>	DCAI'24: 21st International Conference on Distributed Computing and Artificial Intelligence(2024/6/26-29)	<p>【大会概要】 産官学を問わず、システム開発分野に関する研究成果の発表、議論を行う国際会議（年1回）</p>
橋本 虎汰郎	はしもと こたろう	情報学研究科	<p>海外の学術誌 Journal of Dynamics and Games に2024年7月に論文が採択され、American Institute of Mathematical SciencesのWeb上にオープンアクセスにて論文が掲載された</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 題目「The Impacts of Vagueness in Communication on Language Evolution」</li> <li>・ 著者「Kotaro Hashimoto, Hitoshi Hohjo」</li> </ul>	—	<p>【概要】 世界的な純粋及び応用数学ジャーナルで、採択の主な基準は、研究成果は独創的なものでなければならず、科学的妥当性と影響力で質の高い査読論文および解説論文のみが掲載される。Journal of Dynamics and Games (2024) Doi: 10.3934/jdg.2024012</p>
中曾 禎啓	なかそ よしひろ	情報学研究科	<p>右記のシンポジウムにおいて行った口頭発表が、特に優れた発表であると評価を受け「ヤングリサーチ賞」を受賞した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標題「環境情報等からなるユーザ状況を考慮したロボットからの能動的な話しかけ」</li> <li>・ 内容「本研究では、生活空間を自律移動可能なロボットがユーザの周囲の状況を観測し、蓄積されたログデータから適切に能動的な話しかけを行う枠組みを提案し、そのプロトタイプとして、ユーザのカレンダーにある予定とロボットが収集した音声認識結果およびロボットの発話ログ内容を用いた能動的な話しかけ機構を実装した。」</li> <li>・ 賞の概要：ヤングリサーチ賞は、優れたプレゼンテーションを行った30歳未満の方を表彰するもの。</li> <li>・ 中曾くんは、スマートプラットフォーム研究グループ（指導教員：藤本まなど）に所属しており、ロボットと人間の関係性を模索するロボット対話の研究を行い、上記の通り2024年6月26日-28日に開催された岩手県花巻温泉ホテル千秋閣で開催されたマルチメディア、分散、協調とモバイル (DICOMO2024) シンポジウムにおいて、評価委員および一般聴講者による投票にて高く評価され、「ヤングリサーチ賞」を受賞した。</li> </ul>	マルチメディア、分散、協調とモバイル (DICOMO2024) シンポジウム (2024/6/26-28)	<p>【シンポジウムの概要】 情報処理学会最大級の10研究会合同開催の巨大シンポジウムであり、年1回の開催される。合宿形式のシンポジウムであり、他の研究会等と比べ、毎年活発な深い議論が行われる。今年の参加者数は363名であり、口頭発表総数231件、デモ発表9件の発表が行われた。 <a href="https://dicomo.org/">https://dicomo.org/</a></p>
芝原 優希	しばはら ゆき	理学研究科	<p>日本薬学会 第144年会において、学生優秀発表賞（ポスター発表）を受賞した（2024年4月23日）。「改変型pH感受性膜融合GALAペプチドの開発とサイトゾル薬物送達への応用」のタイトルで発表（2024年3月30日）。新規に非天然アミノ酸を導入したpH感受性膜融合ペプチドの合成に成功し（特許出願中）、本ペプチドを薬物送達（DDS）に用いることで、タンパク質薬物等の細胞内移行、及び、エンドソームからの脱出を促進する画期的な技術構築に成功した。DDSにおける新しいキャリアー・添加剤として、様々な応用が期待できる波及効果の高い技術として、高い評価が得られた。 (*芝原優希、中瀬生彦：特願2024-52355)</p>	日本薬学会 第144年会（「遺伝子」や「環境」と共創する薬文化の創生～持続可能な“デジタル治療”の融合を目指して～）/ (2024年3月28～31日、パシフィコ横浜)	<p>【大会概要】 年に1回開催の薬学領域では国内最大の学会。薬学・医学（基礎、臨床）を中心（大学、研究所、病院、製薬企業等）とした研究成果発表・議論を行う。</p> <p>【規模】 参加者数：8,300人 発表数：特別講演（ノーベル賞受賞者含む）13件、シンポジウム88件、一般学術発表3561件（口頭発表1034件、ポスター発表2527件） 受賞者数：259名（ポスター発表受賞）</p>
竹森 洸征	たけもり こうせい	理学研究科	<p>右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「第84回分析化学討論会 若手ポスター賞」を受賞した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発表題目：「炎症マーカーのマイクロフロー光濃縮による広範囲濃度での非侵襲・迅速計測」</li> <li>・ 内容 未熟な超早産児は急激な炎症反応が死因となることが多く、早期治療のための診断には、微量血液中の炎症マーカーを4ケタ以上の濃度範囲でモニタリングの必要があり、従来の免疫測定法では数時間を要し数百mLもの多量の血液が必要だった。一方、本研究では光濃縮とマイクロフロー技術を融合した免疫測定法により数μLの微量サンプル中の炎症マーカーを5分以内に計測でき、6ケタに渡る広い濃度範囲で定量評価できる可能性を解明した。本成果は、兵庫県立こども病院(岩谷G)および北海道大学遺伝子病制御研究所/QST量子免疫学チーム(村上G)との物理学・医学の異分野融合研究によるものである。</li> </ul>	日本分析化学会 第84回分析化学討論会 若手ポスター賞 <a href="https://confitatlas.jp/guide/event/jsac84touron/static/wakate">https://confitatlas.jp/guide/event/jsac84touron/static/wakate</a>	<p>受賞者：竹森洸征 (発表者：竹森洸征、小森弘稀、高木裕美子、田村守、中瀬生彦、床波志保、小林孝生、岩谷社太、村上正晃、飯田琢也) 受賞式：2024年5月19日(日)</p>
遠藤 聖也	えんどう せいや	理学研究科	<p>右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価され「ポスター賞」を受賞した。京大・阪大・神戸大、公立大からアクティビティの高い研究室が数多く参加するなかで受賞した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標題「ジテルベン合成酵素を用いた大環状複素環の合成」</li> <li>・ 内容 ジテルベン合成酵素を用いて、アミドを含む非天然型化合物を合成した世界初の成功例と、生成物の環化反応による生成物多環化反応列について発表した。</li> <li>・ 評価を受けた点 酵素反応と有機合成を掛け合わせた新しい有機合成手法を用いている点がユニークで斬新な研究であると高く評価を受けた。</li> </ul>	第44回 有機合成若手セミナー 明日の有機合成を担う人のために/ (2024/8/1)	<p>【大会概要】 年1回の開催される、本年度で44回目を迎える歴史と伝統のある有機合成化学全般に関するセミナーである。有機合成化学研究分野の第一線で活躍する企業、大学研究者による講演会と、学生のポスターによる研究成果の発表と議論が行われる。関西支部が主催であるが、日本有機合成化学協会の行事の一環として開催されている。若手を中心とする数多くの研究者が集い活発な議論が行われる。</p> <p>【規模】 参加者数：250人 発表数：85件（ポスター発表含む） ポスター発表賞受賞者数：7名</p>
湯浅 永	ゆあさ はるか	理学研究科	<p>右記の学会において行ったポスター発表が、優れた内容であると評価を受け下記を受賞した。</p> <p>①IUPAB2024 Student and Early Career Researcher Poster Award</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標題「Sheet-like structure of bacterial actin MreBs driving helicity switching by cryo electron tomography」</li> <li>・ 他では研究されたことのない細菌の特殊な運動のための力を発生する、タンパク質複合体の構造を最先端のクライオ電子顕微鏡を駆使して部分的に明らかにした。</li> <li>・ 類似した例が全くないため、結果が細胞運動全般の理解に大きな示唆を与えるものである点。</li> </ul> <p>②優秀ポスター賞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標題「スピロプラズマのらせん反転泳運動をもたらす細菌アクチンMreBのシート構造」</li> <li>・ ①とほぼ同じ内容だが、電子顕微鏡の専門家を対象とした内容である点。</li> <li>・ 類似した例が全くないため、研究を進めるのが困難であるにもかかわらず成果をあげた点。</li> </ul>	①IUPAB2024 (第62回生物物理学学会同年会を兼ねる) / (2024/6/24-28) ②日本顕微鏡学会第80回学術講演会/ (2024/6/3-5)	<p>①【大会概要】 2年に1度世界のどこかで行われる生物物理学の国際学会、日本での開催は約60年ぶり、日本生物物理学学会年会と共同で開催された。</p> <p>【規模】 参加者数 1,918名 発表数 1,351件（オーラル216件、ポスター1,135件） IUPAB2024 Student and Early Career Researcher Poster award (若手ポスター賞) 145名</p> <p>②【大会概要】 毎年開催される電子顕微鏡と先端的光学顕微鏡の国内学会</p> <p>【規模】 参加者数：1020人 発表数：426件（ポスター発表156件含む） 優秀ポスター賞 10件</p>
平川 由佳	ひらかわ ゆか	理学研究科	<p>右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「秦野賞」（ベストプレゼンテーション賞、最優秀）を受賞した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標題「内因性ホルムアルデヒド代謝不全が及ぼす細胞への影響」</li> <li>・ 内容 アルデヒド代謝に関連する遺伝子機能を変化させた細胞を用いてホルムアルデヒドの代謝能や細胞毒性を解析した。</li> <li>・ 研究内容と発表技術がともに評価され学会評議員の選考投票で最多票を得た。</li> </ul>	日本環境変異ゲノム学会第5 2回大会 (2023/11/11-12、福岡市)	<p>【大会概要】 年に1回、遺伝毒性分野に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。</p> <p>【規模】 参加者数：400人 発表数：約150件（ポスター発表含む） 受賞者数：4名、うち秦野賞1名</p>



堤 晴香	つつみ はるか	理学研究科	右記の学会において行った口頭発表が、優れた内容であると評価を受け「優秀発表賞」を受賞した。 ・ 標題「EL検出ESRの過渡応答からみた有機EL素子の動作過程」 ・ 内容：高効率な電界発光(EL)を与える有機半導体素子が電子スピン共鳴(ESR)時に起こす微小信号応答からその電子状態変化の振る舞いを探る時間分解手法を世界で初めて実現し、信号解析を経てその動的過程を明らかにした。 ・ 評価を受けた点 など、(i)研究の背景、重要性、目的、問題を解決するための手法、アプローチを明確に伝え、得られた結果や考察を論理的に説明した重要な研究成果として認められた。博士後期課程も含めた口頭発表の中で、博士前期課程でありながら受賞した。	第62回電子スピンサイエンス学会年会 (SEST2023 神戸大学) (2023/11/3)	【大会概要】 年に1回、産官学を問わず、電子スピンを扱う学術研究に関する総合的な研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。 【規模】参加者数：192人 発表数：60件(一般講演も含む) 受賞者数：2名
野津 薫平	のつくんべい	理学研究科	第60回 ペプチド討論会(日本ペプチド学会 主催)において、Poster Presentation Awardを受賞した(2023年11月10日)。「Structural insights into of the binding affinity of a VEGF-targeting helix-loop-helix peptide to inhibit tumor growth」のタイトルで発表(2024年11月8日)。がんの増殖に関わるVEGF(血管内皮細胞増殖因子)に結合するヘリックス-ループ-ヘリックスペプチドの構造的観点からの結合様式に関する新規知見と、ペプチドによるがん細胞増殖阻害に関する研究成果を発表した。世界的に期待されている抗体の小型化を実現する重要な技術・知見に対して、高い評価が得られ受賞に至った。	第60回 ペプチド討論会(日本ペプチド学会 主催) / (2023年11月8~10日、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール、ピアザ淡海)	【大会概要】 年に1回開催のペプチド関連領域では国内最大の学会。ペプチド科学(化学、生物、薬学等)を中心(大学、研究所、製薬企業等)とした研究成果発表・議論を行う。 【規模】 参加者数：600人程度 発表数：一般学術発表212件(口頭発表46件、ポスター発表166件) 受賞者数：10名(ポスター発表受賞)
金野 文香	きんの あやか	理学研究科	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「優秀賞」を受賞した。 ・ 演題名：アルツハイマー病モデルマウスの脳組織における経時的な超硫黄オミクス解析 ・ 内容：近年、新規硫黄化合物の一つとして発見された、チオール基に硫黄が過剰に付加した構造をもつ超硫黄分子について、アルツハイマー病(A D)モデルマウスの脳内における量的な変化を、A D病態を追って経時的に解析した。	第77回 日本酸化ストレス学会・第23回 日本NO学会合同集会(2024/5/17-5/19)	【大会概要】 年に1回、産官学を問わず、レドックス生命科学分野に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。 【規模】 発表演題数：全88件(ポスター発表含む) 受賞者数：6名
北村 章人	きたむら あさと	工学研究科	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「学生最優秀研究発表賞」を受賞した。 ・ 標題「両円偏波アンテナを用いたGNSS反射法による地表面特性推定と改善手法の検討」 ・ 内容：GNSS(全世界航法システム)の信号は通常は測位に使用されるが、反射波を解析することにより地表面の特性(水面、地面、植生等)をとらえることができる。両円偏波アンテナを使用した実験・解析について報告した。 ・ 先行研究からの改善点(ハードウェア、アルゴリズム等)の有効性が評価された。	令和6年度、測位航法学会主催、全国大会研究発表会 / (2024/5/22-24)	【大会概要】 年に1回、産官学を問わず、航法測位分野に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。 【規模】 参加者数：80人 発表数：12件 受賞者数：学生最優秀研究発表賞1名、学生優秀研究発表賞2名
長沢 和泉	ながさわ いずみ	工学研究科	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け、「若手優秀講演賞」を受賞した。 ・ 標題「ステレオカメラを用いたロボット漁船の自動着岸制御手法の開発」 ・ 内容：ステレオ画像法による時々刻々の生け簀の相対距離方位計測を可能にし、ロボット漁船を制御して生け簀に自動着岸する技術を構築。実験により実証した。 ・ 評価を受けた点：LIDAR技術を用いた自動着岸技術は多いもののステレオ画像法による自動着岸技術の実例は少ない。さらにロボット漁船の小型モデルに実装して実証した点が評価された。	日本船舶海洋工学会令和6年度春季講演会 (2024/5/27・28)	【大会概要】 年に2回、産官学を問わず、船舶海洋工学分野に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。 【規模】 参加者数：390人 発表数：158件(若手優秀講演賞対象講演数は58件) 受賞者数：12名、うち三菱賞1名 賞状は秋季講演会開催時(2024.11.21・22)に受領予定。
渡久山 裕亮	とくやま ゆうすけ	工学研究科	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「優秀ポスター賞」を受賞した。 ・ 標題「光電子移動機構を含む環化-脱水素化を利用したチオフェン縮合多環芳香族化合物の合成」 ・ 内容：さまざまな実験事実から環化-脱水素化反応の反応機構について考察を深めるとともにその生成物の基礎物性を評価した。 ・ 評価を受けた点：予想に反する結果に対して量子化学計算やコントロール実験などから多角的に考察し、それを学会での議論でさらに発展させた点が評価された。	第48回有機電子移動化学討論会 / (2024/6/21-22)	【大会概要】 年に1回、産官学を問わず、有機電子移動化学分野に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。 【規模】 参加者数：約200人 発表数：約80件(ポスター発表含む) 受賞者数：13名、うち優秀ポスター賞11名 など
高橋 美郁	たかはし みいく	工学研究科	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け、「優秀賞」を受賞した。 ・ 標題：「微細藻類と従属栄養微生物との共生による排水処理効率の向上」 ・ 内容：微生物を用いた排水処理において、特定の緑藻と酵母とを組み合わせて用いることで、排水処理効率が向上することを初めて明らかにした。さらに、遺伝子発現解析により排水処理効率が向上するメカニズムを明らかにした。 ・ 評価を受けた点：特定の緑藻と酵母とを組み合わせて用いることで排水処理効率が向上することを初めて明らかにした点、排水処理効率が向上するメカニズムまでも明らかにした点、自身の研究結果について背景知識も含め習熟しており、質問者と有意義な質疑応答をおこなえた点	日本生物工学会 若手研究者の集い夏のセミナー(2024/7/13)	【日本生物工学会 若手研究者の集い夏のセミナー】 大会概要：年に1回、産官学を問わず、生物工学分野に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。 参加者数：約100名 ポスター発表数：54名 受賞者数：15名、うち優秀賞10名
尾崎 凌	おさき りょう	工学研究科	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「優秀学生賞」を受賞した。 ・ 標題「噴霧乾燥法による固体電解質の連続合成」	化学工学会第89年会 (2024/3/18-20)	【大会概要】 年に1回、産官学を問わず、化学工学に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。 【規模】 対象ポスター発表数：88件 受賞者数：8名
高城 友紀恵	たかしろ ゆきえ	工学研究科	右記の学会において行ったポスター発表が、優れた内容であると評価を受け「優秀ポスター賞」を受賞した。 ・ 標題「酸化ガリウム光触媒による二酸化炭素還元反応への担体結晶相と銀助触媒担持状態の影響」 ・ 内容：Ga2O3は光触媒として水によるCO2還元反応を進行させ、CO、H2、O2を生成する。Ga2O3は様々な結晶相を有し、それぞれが異なった触媒活性を示す。また、Ga2O3に助触媒としてAgナノ粒子を担持するとCO生成が促進される。本研究では、α単相、β単相、γ単相、αγ混相のGa2O3に対してAgナノ粒子を助触媒として担持し、触媒反応活性の比較を行うとともに、担体の結晶相および助触媒担持方法がCO2還元活性や助触媒の担持状態へ与える影響を調べた。γ単相およびαγ混相のGa2O3では助触媒担持による活性の向上は見られず、助触媒担持に適していないことが明らかになった。一方で、α単相およびβ単相のGa2O3では担持方法によって異なる活性の向上が見られ、担体の比表面積と担持時の前駆体分散度の両因子によって担持されるAgナノ粒子の粒子径が変化することが示唆された。本研究では、担持されたAgナノ粒子の粒子径が11~12 nmの試料が高いCO2還元活性および安定性を示し、大幅な活性向上に成功した。	第43回 光がかかわる触媒化学シンポジウム (2024/7/26, 27)	【学会概要】 本シンポジウムは、光触媒による水分分解や人工光合成、環境浄化や色素増感太陽電池など、光がかかわる触媒化学について基礎的なものから応用にいたるまで幅広いテーマをとりあげる、全国規模の学会です。 【規模】 参加人数：132人 発表数：61件(うちポスター発表41件) 受賞者数：9名、うち最優秀ポスター賞1名
岸本 結花	きしもと ゆか	工学研究科	修士論文が、優れた内容であると評価を受け「日本建築学会 優秀修士論文賞」を受賞した。 ・ 標題「音がある図書館の空間構成と音環境の構築に関する研究」 ・ 内容 高度成長期に多数建設された公立図書館の建替えや改修が近年活発に行われており、本を借りるだけの場所から脱却し、交流や創造など多様な場を有する新たな図書館への転換が図られている。そのようななか応募者は、図書館利用が従来型に留まる原因は音環境の静けさにあるとする独創的な着眼点をもち、動作音や声などの音が気にならない「音がある図書館」には新たな図書館創設の可能性があるとの仮説を立て、全国の図書館の視察と関係構築を通して本研究を着想・実行した。 ・ 評価を受けた点 など 本研究の調査データは、全国の公立図書館に対する大規模アンケート調査と2つの図書館における等価騒音レベル測定と利用者アンケート調査から得た貴重なものであり、研究実行に向けた応募者の構想力・交渉力・実行力の賜物である。建築環境工学分野の研究者の助言も受け、音がある図書館を創出する条件をソフトとハードの両面から析出した研究成果は、新築・改修を問わず一般の図書館を新たな図書館へと転換する手法として有用性が高く、図書館研究の新分野を拓く可能性がある。	日本建築学会 (2024年7月5日受賞の連絡・2024年8月28日表彰状授与) ※受賞の決定が対象期間内の為、応募対象ということも、学生課に確認済み。	【学会概要】 会員は3万6千名余にのぼり、会員の所属は研究教育機関、総合建設業、設計事務所をはじめ、官公庁、公社、建築材料・機器メーカー、コンサルタント、学生など多岐にわたっています。



松岡 諒	まつおか りょう	工学研究科	<p>右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「優秀賞」を受賞した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標題「発電所における保全技術確立に向けた製造運用統合デジタルツインの開発」</li> <li>・ 内容：次世代の保全技術の確立に向け、製造工程と運用工程を考慮した「製造運用統合デジタルツインの開発」を目指し、製造時の実現象を解析上に再現する製造デジタルツインシステムを構築した。</li> <li>・ 評価を受けた点：課題に対する理解、研究内容、プレゼンテーション</li> </ul>	第20回 日本保全学会学術講演会/ (2024/8/5~2024/8/8)	<p>【大会概要】 「日本保全学会発足時から議論を積み重ねてきた分野から、DX・AI技術のような最新の技術まで、安全性や省力化を推し進め、安定的な電源供給に寄与する保全の在り方・未来について考える」ことを趣旨として、8月5日~8日の日程で開催された。毎年一回開催され、本年度は東京大学駒場キャンパスとオンラインによるハイブリッド開催であった。</p> <p>【規模】 応募者数：15人 優秀賞受賞者数：2名</p>
遠藤 真仁	えんどう まさひと	工学研究科	<p>①右記の学会において行った発表（Abstract審査論文の口頭発表）が、優れた内容・発表であると評価を受け、「Best Presentation Award」を受賞した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標題：「A Study on Pedestrian Traffic and Staying Behavior around Urban Main Street: A Case of Social Experiment Midosuji Challenge 2022, Osaka」</li> <li>・ 内容：大阪・なんばエリアを対象に、御堂筋で行われた公共空間再編・利活用の社会実験前後の歩行者通行量及び滞留・回遊実態を調査・分析・考察し、社会実験による効果と課題を明らかにした。</li> <li>・ 評価を受けた点：都心部メインストリートの大規模な再編・利活用として世界的な先進事例である御堂筋を対象に、定量的な調査及びその多角的な分析・考察を行った点が評価された。また明快なプレゼンテーション及び質疑応答が評価を受けた。</li> </ul> <p>②筆頭著者である学術論文（査読付き）1編が都市計画学会の学術誌に採択、掲載された。学会の全国大会にて口頭発表を行った。口頭発表を行った学会の大会名称を右に記す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 論文の内容：御堂筋で行われた公共空間再編・利活用の社会実験において、歩道上に設置された滞留スポット設置前後の滞留行動について定量的に調査・分析を行い、滞留スポット設置の有効性と課題を明らかにした。</li> </ul>	<p>①International Conference of Asian-Pacific Planning Societies 2023（ベトナム・ダナン） (2023/8/17-19)</p> <p>②日本都市計画学会 2023年度全国大会（第58回論文発表会） (2023/11/10-12)</p>	<p>①の備考 【大会概要】 年に1回、アジア各国が持ち回りで、都市計画分野に関する研究成果の発表・議論を行う国際会議です。</p> <p>【規模】 参加者数：400人強 発表数：165件（ポスター発表31件含む） 受賞者数：21名（16からなる各セッションから1~2名が受賞）</p> <p>②の備考 【著者】遠藤真仁・嘉名光市・高木悠里 【課題等】「都心部メインストリートにおける滞留スポットの利用実態に関する研究-社会実験・御堂筋チャレンジ2022を対象として-」, 日本都市計画学会, 都市計画論文集, 58(3), pp1000-1007, 2023年10月.</p>
岡内 孝樹	おかうち たかき	工学研究科	<p>右記の学会において行った発表が、非常に優れた内容であると評価され「学生優秀発表賞」を受賞した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 題目「内殻硬X線光電子分光を利用したモット型絶縁体とスレーター型絶縁体の新しい判別方法の提案」</li> <li>・ イリジウム磁性絶縁体の新しい分類法の理論提案と検証実験の報告</li> <li>・ 本人が独自に行った高精度第一原理計算の結果に基づく新しい絶縁体分類法の提案が高い評価を受けた。また、発表の説明・質疑応答も大変明快であった。</li> </ul>	2024年日本物理学会春季大会 (2024/3/31)	<p>日本物理学会は、日本で最も権威のある物理学の総合的学会であり、全国の理論・実験研究者が集まり、最新の研究成果に関する発表と議論が行われる学会です。当該学生は、領域5（光物性分野）で発表を行った。 学会参加者: 5000人程度 当該領域発表数: 27件 受賞者数: 1名</p>
Yuting Shi	シ ウテイ	工学研究科	<p>右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「ポスターアワード」を受賞した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標題「塗布成膜した有機フローティングゲート層を有するトップゲート型ペンタセノ有機トランジスタメモリの電気特性」</li> <li>・ 内容：ペンタセノを半導体層に用いた有機トランジスタメモリに塗布成膜した高分子絶縁体と可溶性低分子半導体の垂直相分離によって自発形成されたフローティングゲート層を用いることで、実用上重要となる高い電流オンオフ比と長期間の電荷保持特性、曲げ特性に対する高い耐久性を達成できることを示した。</li> <li>・ 評価を受けた点など：フローティングゲート方式の有機メモリで良好なメモリ動作を得るためには有機トンネル絶縁膜の膜厚の精密制御が必要となるが、通常の作製法でこれを達成することは極めて困難である。本研究では、高分子絶縁体と可溶性低分子半導体の混合膜で生じる垂直相分離現象を利用することでこれを改善した。更に、プラスチック基板上に作製したメモリ素子で曲率半径3.6 mmまで繰り返し曲げても特性劣化を示さないことを高分子半導体を用いたメモリ素子との特性比較によって実証したことが評価されたものと考えている。</li> </ul>	薄膜材料デバイス研究会 第20回研究集会/ (2023/11/9-10)	<p>【大会概要】 年に1回、シリコン、酸化物材料及び有機材料を用いた半導体薄膜の電子物性とそのデバイス応用に関する研究成果を分野の垣根を超えて、発表、議論を行う全国規模の学会です。</p> <p>【規模】 参加者数：101名 発表数：34件（ポスター発表） 受賞者数：1名</p>
奥田 萌斗	おくだ もえと	工学研究科	<p>右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「Outstanding Poster Paper Award」を受賞した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標題「Low-Voltage Driving of Inverted Organic Light-Emitting Diodes Utilizing Upconversion Process」</li> <li>・ 内容：溶液プロセスを用いた低電圧有機ELの高性能化に向けて、アクセラティブ高分子半導体の構造による発光特性の違いを明らかにし、垂直相分離を介してドナーアクセラティブ積層膜を塗布成膜し、良好な発光特性が得られることを示した。</li> <li>・ 評価を受けた点など：アップコンバージョンを用いた有機ELの研究は2022年から急速に進展しており、これまでに報告が無い溶液プロセスにより作製した有機EL素子で低電圧発光を実証し、更にプラスチック基板上にフレキシブル有機ELの開発に適した有機層の積層順が逆となる逆構造素子を採用したことが評価されたものと考えられる。</li> </ul>	The 30th International Display Workshops/ (2023/12/6-8)	<p>【大会概要】 年に1回、ディスプレイ分野に関する研究成果の発表、議論を行うアジア最大級の国際会議であり、産官学の多数の研究者が参集する。</p> <p>【規模】 参加人数：1,042人 発表数：139件（ポスター発表） 受賞者数：14件</p>
服部 秀政	はっとり しゅうせい	工学研究科	<p>①右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「Best Student Poster Award」を受賞した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標題「Wavelength tunable synaptic characteristics in organic transistor memories with organic semiconductor floating gates」</li> <li>・ 内容：フローティングゲートに可溶性ペンタセノ、有機半導体層にジナフトチエノチオフェンを用いた有機トランジスタメモリにおいて、照射光に応じて異なるシナプス特性が現れることを見出し、特性発現に有機材料を用いたフローティングゲート層での光キャリア生成が関与することを示唆する結果を得た。</li> <li>・ 評価を受けた点など：有機トランジスタメモリのシナプス応用に関する研究は国内では他に例が無く、また照射光によって変化する特異なシナプス特性を見出し、その発現機構に関する知見を得たことが評価されたものと考えている。</li> </ul> <p>②右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「M&amp;BE Student Poster Award」を受賞した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標題「Optoelectronic organic floating-gate memories for analog synapse devices」</li> <li>・ 内容：有機フローティングゲートメモリにおいて青色光照射下での書き込みによってアナログシナプスデバイスへの応用に適したコンダクタンス特性を実現でき、その応用可能性をパターン認識のシミュレーションによって検証した。</li> <li>・ 評価を受けた点など：著者らが開発した有機トランジスタメモリにおいて優れたコンダクタンス特性を発現でき、有機メモリでパターン認識の学習に対する高い正答率が得られることをいち早く実証できたことが評価されたものと考えている。</li> </ul>	<p>① 13th International Symposium on Organic Molecular Electronics (ISOME2024)/ (2024/5/29~31)</p> <p>② The 11th International Conference on Molecular Electronics &amp; Bioelectronics (M&amp;BE11)/(2024/6/19~21)</p>	<p>① 【大会概要】 年に1回、有機電子材料の光電子物性やデバイス応用等の最新の研究成果を発表、議論を行う電子情報通信学会のOME研究会が主催する全国規模の学会である。</p> <p>【規模】 参加者数：100名程度 発表数：41件（ポスター発表含む） 受賞者数：6名、うちPoster Award 5名、Presentation Award 1名</p> <p>② 【大会概要】 2年に1度、有機材料、有機半導体デバイス、バイオエレクトロニクスに関連する研究成果を発表、議論する応用物理学会M&amp;BE分科会主催の全国規模の学会である。</p> <p>【規模】 参加者数：242名 発表数：176件（ポスター発表含む） 受賞者数：18名、うち M&amp;BE Award 2名、M&amp;BE Student Poster Award 12名など</p>
弓山 玲未	ゆみやま れみ	工学研究科	<p>右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「ハイライト講演」に選出されるとともに、「優秀研究ポスター賞」を受賞した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標題「DDSキャリアへの応用を指向した環境応答型自己分解能を有するアニオン化トリプシンの調製と機能評価」</li> <li>・ 内容：生理的環境では自己分解性を示さず、酸性環境で自己分解性を示すアニオン化トリプシンを開発し、新たなDDSキャリアへの応用可能性を示すことに成功した。</li> <li>・ 評価を受けた点：優れたポスター発表を行ったことが評価された。</li> </ul>	第45回日本バイオマテリアル学会大会/ (2023/11/6-7)	<p>【大会概要】 年に1回、産官学を問わず、バイオマテリアルに関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。</p> <p>【規模】 参加者数：700人 発表数：300件（ポスター発表含む） 優秀ポスター受賞者：発表者の約10%</p>
古田 萌	ふるた もえ	工学研究科	<p>右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「遺伝子・デリバリー研究会第22回シボジウム奨励賞」を受賞した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標題「弱酸性環境で荷電反転するポリカルボン酸被覆三元複合体の調製」</li> <li>・ 内容：生理的条件下では良好な分散安定性を示しつつ、細胞内弱酸性環境では界面に吸着したポリマーが脱着しエンドソーム脱出が可能となるTiO2ナノ粒子内包複合体を調製し、超音波力学療法による癌治療への可能性を示すことに成功した。</li> <li>・ 評価を受けた点：優れたポスター発表を行ったことが評価された。</li> </ul>	遺伝子・デリバリー研究会第22回シボジウム/ (2023/9/19)	<p>【大会概要】 年に1回、産官学を問わず、遺伝子および薬物のドラッグデリバリーシステムに関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。</p> <p>【規模】 参加者数：100人 発表数：20件（ポスター発表含む） 優秀ポスター受賞者：発表者の約10%</p>
片山 葵	かたやま あおい	工学研究科	<p>右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「Best Presenter Award」を受賞した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 標題「Preparation of TiO2 Nanoparticles Grafted With Biocompatible Polymers Synthesized With Phosphonic Acid-Functionalized RAFT Agent for Sonodynamic Therapy」</li> <li>・ 内容：リン酸基を含む新規RAFT剤を用いて合成した生体適合性高分子を修飾した酸化チタンナノ粒子を開発し、超音波力学療法への可能性を示した。</li> <li>・ 評価を受けた点：優れたポスター発表を行ったことが評価された。</li> </ul>	MRM2023/IUMRS-ICA2023/ (2023/11/11-16)	<p>【大会概要】 材料化学に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の国際学会です。</p> <p>【規模】 参加者数：2000人（40か国） 発表数：2000件（ポスター発表含む） 優秀ポスター受賞者数：全体の約10%</p>

中尾 彰宏	なかお あきひろ	工学研究科	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「優秀学生講演賞」を受賞した。 ・ 標題「人工抗体金属ナノ構造体による細菌の電気化学検出」	2023年電気化学会秋季大会 (2023/9/19)	【大会概要】 年に2回、産官学を問わず、電気化学分野に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。 【規模】 発表数：44件 受賞者数：5名
山中 里奈	やまなか りな	工学研究科	右記の学会において行ったポスター発表が、優れた内容であると評価を受け「優秀ポスター賞」を受賞した。 ・ 発表題目「還元安定性を有するナトリウムイオン伝導性Na-Al-S系電解質の作製」	日本化学会 電気化学ディビジョン 化学電池材料研究会 第52回講演会・夏の学校/(2024/8/6-7)	【大会概要】 年に1回、産官学を問わず、化学電池材料分野に関する最先端の講演、研究成果の発表および議論を行う合同形式の全国規模の学会です。 【規模】 参加者数：55名 発表数：33件 受賞者数：4名
井上 義文	いのうえ よしふみ	工学研究科	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け、化学工学会では「学生奨励賞」、日本生物工学会では「敢闘賞」を受賞した。 ・ 標題：化学工学会「 <i>Komagataella phaffii</i> によるメタノールからのD-乳酸生産を目指したD-LDH発現の検討」、日本生物工学会「メタノール資化性酵母によるD-乳酸生産を目指したD-LDH発現の検討」 ・ 内容：メタノール資化性微生物である <i>Komagataella phaffii</i> を用いたメタノールからのD-乳酸生産に関して、酵素遺伝子の由来、遺伝子発現の際に用いるプロモーターの最適化を行い、既往の研究結果に比べてD-乳酸生産量を大幅に向上させることに成功した。 ・ 評価を受けた点：メタノールを原料とした微生物による有用物質生産に関する報告例は極めて少なく、研究内容がユニークであった点、自身の研究結果について背景知識も含め習熟しており、質問者と有意義な質疑応答をおこなえた点	化学工学会 第89年会(2024/3/18)、日本生物工学会 若手研究者の集い夏のセミナー(2024/7/13)	【化学工学会 第89年会】 大会概要：年に1回、産官学を問わず、化学工学分野に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。 参加者数：約2000人 ポスター発表数：315名 受賞者数：67名、うち学生奨励賞23名 【日本生物工学会 若手研究者の集い夏のセミナー】 大会概要：年に1回、産官学を問わず、生物工学分野に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。 参加者数：約100名 ポスター発表数：54名 受賞者数：15名、うち敢闘賞4名
大橋 歩実	おおはし あゆみ	工学研究科	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「ベストプレゼンテーション賞」を受賞した。 ・ 標題「数値解析を用いたシクロデキストリン型MOF粒子の複数薬物キャリア能の評価」	粉体工学会 2024年度 春期研究発表会 (2024/5/14-15)	【大会概要】 年に1回、産官学を問わず、粉体工学に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。 【規模】 対象口頭発表数：19件 受賞者数：4名
池田 光	いけだ ひかる	工学研究科	右記の学会の事業創出ピッチコンテストにおいて行った発表が、優れた内容であると評価を受け「敢闘賞」を受賞した。 ・ 標題「生菌数の迅速検査による食の安心安全の実現」	事業創出ピッチコンテスト (2024/7/19)	【大会概要】 電気化学分野に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。 【規模】 発表数：4件 受賞者数：3名
板垣 賢広	いたがき さとひろ	工学研究科	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「大阿蘇若手ポスター賞」を受賞した。 ・ 標題「細菌標識のための分子インプリントポリマー被覆金属ナノ構造体の開発」	日本分析化学会第72年会 (2023/9/15)	【大会概要】 年に2回、産官学を問わず、分析化学分野に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。 【規模】 発表数：114件 受賞者数：21名
藤田 侑志	ふじた ゆうし	工学研究科	右記の国際学会において行ったポスター発表が、優れた内容であると評価を受け「BEST POSTER PRESENTATION AWARD」を受賞した。 ・ 発表題目「High Capacity Li <sub>2</sub> S-Li <sub>2</sub> O-LiI Positive Electrodes for All-Solid-State Li/S Batteries」	18th Asian Conference on Solid State Ionics - 2024(18th ACSSI-2024)/(2024/2/19-22)	【大会概要】 2年に1回、アジア全域の科学者・技術者を集結し、Solid State Ionicsに関連する基礎と応用について議論し、地域だけでなく地域以外の様々なSolid State Ionics研究者とのコラボレーションを促進する国際学会です。 【規模】 参加者数：約200人 発表数：105件 受賞者数：10名
久井 花恋	ひさい かれん	農学研究科	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「ポスター賞」を受賞した。 ・ 標題「外来寄主植物の利用が絶滅危惧種クロツバメシジミの翅色と配偶行動に与える影響」 ・ 内容：クロツバメシジミ <i>Tongeia fischeri</i> は、岩場や河川敷に生息するが、開発などによって生息地が減少し、環境省の準絶滅危惧に選定されている。本種の幼虫は、主に在来のツメレンゲを利用するが、近年、外来のマンネンサ属の利用が各地で確認されている。本研究では、本種幼虫を異なる寄主植物で飼育し、得られた成虫の翅の色彩を比較するとともに、外来植物の利用にともなう配偶行動や生活史同調への影響を検証した。	日本昆虫学会第84回大会・第68回日本応用動物昆虫学会大会合同大会/ (2024/3/28-2024/3/31)	【大会概要】 日本学術会議、日本昆虫科学連合、日本昆虫学会、日本応用動物昆虫学会の共催で、両学会が8年ぶりに行う合同大会です。研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。 【規模】 参加者数：1,083人 発表数：ポスター発表190件 受賞者数：ポスター賞18名
田中 あゆむ	たなか あゆむ	農学研究科	右記の学会において行った発表が、優れた発表であると評価を受け「優秀ポスター賞」を受賞した。 ・ 演題「青枯病菌QSシグナル分子の受容体PhcSの解析と新規アンタゴニストの創製」	第37回 農業デザイン研究会 (2023/11/22)	【大会概要】 年に1回、産官学を問わず、創薬分野に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の研究会です。 【規模】 発表数：25件 (ポスター発表) 受賞者数：3名
松井 陽和	まつい ひより	農学研究科	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「優秀講演賞」を受賞した。 ・ 標題「人工光型植物工場でのアクアポニックスによるイチゴ生産」 ・ 内容 人工光型植物工場内においてニジマスとイチゴを組み合わせたアクアポニックスを行い、実用技術としての利用が可能なことを証明した。 ・ 評価を受けた点 など 生体工学の研究として優秀であり将来の発展が期待できる点	2024生体工学会年次大会/ (2024/6/30)	【大会概要】 年に1回、産官学を問わず、生体工学分野に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。 【規模】 参加者数：約120人 発表数：26件 (ポスター発表含む) 受賞者数：5名
小野 尚重	おの なおしげ	獣医学研究科	右記の国際学会において行った発表が、優れた内容であるとの評価を受け「Investigator Award」を受賞した (副賞として30,000円)。 ・ 演題名：Interleukin-19 gene-deficient mice deteriorated liver fibrosis through TGF-β and CCL2 signaling ・ 発表形式：英語による口頭発表 ・ 内容：インターロイキン-19が肝臓の線維化形成を抑制することを見出した ・ 評価を受けた点：インターロイキン-19の肝臓における新規役割を見出し、かつ、その役割が肝疾患における重要なトピックである線維化形成に抑制的に関与することを明らかにした。	The 33rd Annual Meeting of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver (Kyoto, JAPAN) 2024年3月30日	【大会概要】 アジア太平洋地域における最も規模の大きい肝臓の国際学会 年1回の開催 【規模】 参加人数：公表されていないが、過去のデータでは1,500-3,000人規模の参加 演題数：約1,100 (ポスター発表含む) 受賞人数：約20名



大浦 達史	おおaura たつし	医学研究科	<p>被推薦者は、対象活動期間において、以下の顕著な研究業績を挙げました：</p> <p>①国際的学術雑誌（査読付）に筆頭著者として2編の研究論文を掲載  ②国際的学術雑誌（査読付）に共著者として5編の研究論文を掲載またはaccept  ③日本語の総説を筆頭著者として1編執筆  これらの優れた業績を踏まえ、被推薦者を強く推薦いたします。</p>		<p>(筆頭論文)</p> <p>1. <a href="#">Oura T</a>, Tatekawa H, Horiuchi D, Matsushita S, Takita H, Atsukawa N, Mitsuyama Y, Yoshida A, Murai K, Tanaka R, Shimono T, Yamamoto A, Miki Y, Ueda D  Diagnostic accuracy of vision-language models on Japanese diagnostic radiology, nuclear medicine, and interventional radiology specialty board examinations. Japanese Journal of Radiology. 2024 Jul 20. doi:10.1007/s11604-024-01633-0.</p> <p>2. <a href="#">Oura T</a>, Shimono T, Horiuchi D, Goto T, Takita H, Tsukamoto T, Tatekawa H, Ueda D, Matsushita S, Mitsuyama Y, Atsukawa N, Miki Y  Evaluation of cranial nerve involvement in chordomas and chondrosarcomas: a retrospective imaging study. Neuroradiology. 2024 Jun;66(6):955-961. doi: 10.1007/s00234-024-03322-1.  (本論文が掲載されたNeuroradiologyは、ヨーロッパ神経放射線学会、日本神経放射線学会、および20か国以上の神経放射線学会のofficial journalである)  (共著論文)</p> <p>1. Horiuchi D, Tatekawa H, <a href="#">Oura T</a>, Shimono T, Walston SL, Takita H, Matsushita S, Mitsuyama Y, Miki Y, Ueda D  ChatGPT's diagnostic performance based on textual vs. visual information compared to radiologists' diagnostic performance in musculoskeletal radiology. European radiology. 2024 Jul 12. doi: 10.1007/s00330-024-10902-5.</p> <p>2.Horiuchi D, Tatekawa H, <a href="#">Oura T</a>, Oue S, Walston SL, Takita H, Matsushita S, Mitsuyama Y, Shimono T, Miki Y, Ueda D  Comparing the Diagnostic Performance of GPT-4-based ChatGPT, GPT-4V-based ChatGPT, and Radiologists in Challenging Neuroradiology Cases Clinical Neuroradiology. 2024 May 28. doi: 10.1007/s00062-024-01426-y.</p> <p>3. Tatekawa H, Ueda D, Takita H, Matsumoto T, Walston SL, Mitsuyama Y, Horiuchi D, Matsushita S, <a href="#">Oura T</a>, Tomita Y, Tsukamoto T, Shimono T, Miki Y  Deep learning-based diffusion tensor image generation model: a proof-of-concept study.Scientific reports. 2024 Feb 5;14(1):2911. doi: 10.1038/s41598-024-53278-8.</p> <p>4. Horiuchi D, Tatekawa H, Shimono T, Walston SL, Takita H, Matsushita S, <a href="#">Oura T</a>, Mitsuyama Y, Miki Y, Ueda D  Accuracy of ChatGPT generated diagnosis from patient's medical history and imaging findings in neuroradiology cases. Neuroradiology. 2024 Jan;66(1):73-79. doi: 10.1007/s00234-023-03252-4.  (本論文が掲載されたNeuroradiologyは、ヨーロッパ神経放射線学会、日本神経放射線学会、および20か国以上の神経放射線学会のofficial journalである)</p> <p>5. Matsushita S, Shimono T, Maeda H, Tsukamoto T, Horiuchi D, <a href="#">Oura T</a>, Ishibashi K, Takita H, Tatekawa H, Goto T, Miki Y  Comparison of clinical and radiological characteristics of inflammatory and non-inflammatory Rathke cleft cysts. Japanese Journal of Radiology. (2024/8/7にaccept)  (日本語総説)</p> <p>1. 大浦 達史, 立川 裕之, 三木 幸雄  頭部のcommon diseaseにみる非典型的画像所見 :脳腫瘍疾患  画像診断 2024.44(5) 443-451</p>
中井 横也	なかい しんや	医学研究科	<p>1. 査読付きの国際学術誌に第一著者として原著論文が掲載された (2024/1/31)。  2. 「令和5年大阪公立大学医学部長賞 (奨励賞)」を受賞した (2024/3/14)。  3. 「第9回 (2024年) 時実利彦記念神経科学優秀博士研究賞」を受賞した (2024/7/25)。</p>		<p>1. <b>Shinya Nakai</b>, Takuma Kitanishi*, Kenji Mizuseki*.  Distinct manifold encoding of navigational information in the subiculum and hippocampus. <i>Science Advances</i> (2024) 10:eadi4471.  DOI: 10.1126/sciadv.adi4471</p> <p>2. 大阪公立大学医学部・医学研究科の全教員、大学院生および医学部附属病院の全職員を対象とし、この1年で優れた論文業績があった方に贈られる賞。</p> <p>3. 日本神経科学学会が主催する、大学院学生による優秀な研究に与えられる賞。</p>
大類 淳矢	おおるい じゅんや	リハビリテーション学研究科	<p>①右記の論文が国際誌であるscientific reportsにaccept, publishされた。  ・ 標題「Psychophysiological and interpersonal effects of parallel group crafting: a multimodal study using EEG and ECG」  ・ 内容：作業療法における並行集団での手工芸活動の実施により、副交感神経活動が高まること、場を構成する二者間の生理的同調が高まること、生理的同調と関連した脳波活動が見られることを報告した。これらにより、作業療法における並行集団を用いることの効果に関するエビデンスを電気生理学的に補強できる可能性を示唆した。  ・ 評価を受けた点：国際誌での査読・掲載に耐えうる実験デザインと被験者数の確保、解析手法を用いた点と、作業療法のホリスティックな効果を電気生理学的に説明し、エビデンスの構築に寄与した点で評価を受けた。  ②右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「優秀演題賞」を受賞した。  ・ 標題「共分散構造分析を用いた多職種連携の実践度と職種間交流の検討－精神科領域における調査－」  ・ 内容：本研究では、精神科作業療法に対する他職種からの役割の理解と様々な職種間交流、連携の実践度を調査し、共分散構造分析を行うことによりそれらの関連性を検討した。その結果、多職種連携の実践度にはインフォーマル交流が他の因子よりも強く影響していることが明らかになった。本研究結果より、多職種連携や多職種からの役割理解のためにはインフォーマルな交流が重要である可能性を示唆された。  ・ 評価を受けた点：研究デザインや解析手法などが目的に沿った手法であり、医療における連携のために必要な要素を客観的に明らかにした点で評価を受けた。</p>	<p>①Scientific reports 14 (1). DOI: 10.1038/s41598-024-68980-w. (2024年8月2日published)</p> <p>②第44回近畿作業療法学会 (2024年6月30日)</p>	<p>①  Junya Orui, Keigo Shiraiwa, Fumie Tazaki, Takao Inoue, Masaya Ueda, Keita Ueno, Yasuo Naito, Ryouhei Ishii. Psychophysiological and interpersonal effects of parallel group crafting: a multimodal study using EEG and ECG. Scientific reports 14 (1). DOI: 10.1038/s41598-024-68980-w.</p> <p>②  【大会概要】  年に1回、作業療法分野に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。  【規模】  参加者数：約1300人  発表数：約100件 (シンポジウム含む)  受賞者数：3名</p>
勝山 奈央	かつやま なお	生活科学研究科	<p>修士研究のテーマを応用して応募した作品「道標の家-大地から建ち上がる擁壁と架構-」が「木の家設計グランプリ2023」にて優秀賞を受賞した  ・ 作品名：道標の家-大地から建ち上がる擁壁と架構-  ・ 内容：リモートハウスという課題テーマに対して、移住先の住まいが道標となるような造形を提案  ・ 風や地面、海、山などの環境による線を取り込み、自分たちが今生きている場所を感じながら暮らせる家というコンセプトが評価された  ・ 建築の内外を横断する動線や、風を取り込む木造架構、移住時の決意を思い出すための塔など、設計時にコンセプトが枝広がりになっており、メインコンセプトを1つ定めて深く掘り下げる提案にすべきだと批評いただいた  ・ 最小限の操作で最大限の効果が得られるよう、カタチを洗練させていくことが大切とアドバイスいただいた</p>	<p>木の家設計グランプリ2023、課題テーマ 「リモートハウス-風景と調和する家」優秀賞受賞  受賞者：松村 真衣 / 勝山 奈央  (公開審査会 2023年9月30日)</p>	<p>【設計競技概要】  主催者：株式会社 木の家専門店 谷口工務店  応募資格：大学院修士、学部生、高等専門学校生、専門学校生、高校生として2023年4月1日現在在籍する建築学生を対象  【規模】  金賞：銀賞・銅賞に続く優秀賞を受賞  2023年度は、3年ぶりの完全対面で、滋賀県立美術館にて開催された。応募作品数は253作品。一次通過した現地審査作品数は96作品。  Webサイト：http://www.dentoumirai.jp</p>
米田 菜月	よねだ なつき	生活科学研究科	<p>右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「学生優秀発表賞」を受賞しました。  ・ 標題：「バリ欠乏環境によるWnt/<math>\beta</math>-cateninシグナル伝達経路の抑制」  ・ 内容：分岐鎖アミノ酸はバリン、ロイシン、イソロイシンの3つアミノ酸の総称であり、ヒトの体内では合成できない必須アミノ酸であります。従来から、分岐鎖アミノ酸は筋肉の主要な構成アミノ酸として知られ、重要なエネルギー源であることが示されています。私たちは、バリ欠乏環境により、骨形成の源となる骨芽細胞の分化を担う重要なシグナル伝達経路であるWnt/<math>\beta</math>-cateninシグナルが抑制されることを見出しました。本研究では、骨代謝におけるバリ欠乏の影響と作用機構を明らかにしており、分岐鎖アミノ酸バリンの栄養学的な重要性を再認識させるものであります。  ・ 評価を受けた点：優れた内容の発表であると評価を受けました。</p>	<p>第78回 日本栄養・食糧学会大会 (2024/5/24～26)</p>	<p>【大会概要】  年に1回、産官学を問わず、栄養・食糧科学分野に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。  【規模】  参加者数：2,000人  発表数：152件 (口頭発表のみ)  受賞者数：13名  https://www.jsnfs.or.jp/news/news_20240619-2.html</p>
小田 裕平	こだ ゆうへい	生活科学研究科	<p>日本建築学会設計競技にて全国入選・佳作を受賞した。  作品名：Co-LEC——エネルギー循環による住工共存型の産業都市 chrome-  extension://efaidnbmnmnibpajpcglclefindmkaj/https://www.aij.or.jp/jpn/symposium/2023/aijcompe2023.pdf</p> <p>また日本都市計画学会の論文集に査読付論文が掲載された。表題「地方都市における地場産業が都市空間に及ぼした影響：和歌山県新宮市の木材産業を事例として」  (https://doi.org/10.11361/journalcpj.58.969)</p>	<p>日本建築学会設計競技 全国入選・佳作 (2023.9.13)  (日本建築学会四国支部入選)</p> <p>日本都市計画学会論文集への論文掲載</p>	<p>日本建築学会は会員数3万人以上の建築に関連する国内最大の学会であり、学会が主催する設計競技は若手建築家の登竜門として現行の形式になってからでも70年もの歴史を持つ由緒ある建築設計競技である。全国から300作品が応募しており、支部入選をした作品から全国審査を行い、全国入選を果たした。全国入選した作品12点について日本建築学会大会 (京都大学) で発表し、佳作を受賞するに至った。  また設計活動を行う一方で、研究論文の投稿にも取り組んでおり、都市計画分野においては高く評価される都市計画論文集に査読付き論文が掲載された。</p>

橋本 健太郎	はしもと けんたろう	生活科学研究科	日本建築学会設計競技にて全国入選・佳作を受賞した。 作品名：Co-LEC――エネルギー循環による住工共存型の産業都市 chrome-extension://efaidnbmninnbpcjpcgkclefindmkaj/https://www.aij.or.jp/jpn/symposium/2023/aijcome2023.pdf	日本建築学会設計競技 全国入選・佳作 (2023.9.13) (日本建築学会四国支部入選)	日本建築学会は会員数3万人以上の建築に関連する国内最大の学会であり、学会が主催する設計競技は若手建築家の登竜門として現行の形式になってからでも70年もの歴史を持つ由緒ある建築設計競技である。全国から300作品が応募しており、支部入選をした作品から全国審査を行い、全国入選を果たした。全国入選した作品12点について日本建築学会大会(京都大学)で発表し、佳作を受賞するに至った。
殿谷 愛乃	とのたに あいの	生活科学研究科	右記の学会において行った発表が優れた内容であると評価を受け「若手学会発表賞優秀発表賞」を受賞した。 ・ 標題「食に関する指導における栄養教諭と担任教諭の連携プロセスに関わる要素の質的探索と支援策の検討」 ・ 内容：小学校での食育推進に向け、栄養教諭と担任教諭との連携に着目し、栄養教諭を対象に個別インタビューを実施した。推進・障壁要素を概念図として可視化し、各段階における支援の要点を示した。 ・ 評価を受けた点：食育の連携という重要課題について、質的研究手法により課題と方策を探索的に明らかにした点、概念図として可視化した点が評価された。	第70回 日本栄養改善学会学術総会/ (2023/9/2)	【大会概要】 年に1回、実践栄養分野における研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。管理栄養士養成課程のほとんどの大学の研究者が参加する実践栄養分野で最も大きな学会です。 【規模】 参加者数：約2000人 発表数：537演題 受賞者数：若手学会発表優秀賞5名 最優秀賞1名

他5名

【大阪市立大学】

氏名 Name	ふりがな Furigana	学部・学科 Faculty・Department 学域・学類 College・School 研究科 Graduate school	推薦理由・成績(功績の内容) Reasons for Recommendation	【学会等における受賞等の場合に記入】 国際大会または国内大会 International competition or National competition ／(開催年月日 date)	その他参考事項 Others ※学術誌であれば、タイトルや大会の規模・概要などを記載してください If it is an academic journal, please include the title, scale and outline of the conference, etc.
涌井 謙佑	わくい けんすけ	医学部医学科	涌井謙佑君は右記のコンテストにおいて行った発表が、優れた内容であると評価を受け「B部門：私たちができることを考える部門 ～NTDsと私たちの関わり方～」における「最優秀賞」を受賞しました。B部門は15チーム(26名)の応募者の中から最優秀賞として1名が選考されました。最終審査は大畑 美菜氏(GHIT Fund ブランドコミュニケーション シニアマネージャー)、岡田 岳大氏(厚生労働省 大臣官房国際課 国際保健・協力室 課長補佐)など産学官を代表する委員により行われました。 https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000002.000134800.html 涌井君は、3年次での修業実習において私たちの研究室へ所属し、その後も研究活動を継続し、成果の発表にいたしました。学部生にあっては、研究活動実績に顕著な功績をおさめた涌井君を学長表彰に推薦致します。 以下、発表概要 ・ 標題「シャーガス病新規治療薬の検討」 ・ 内容 エルサルバドル産植物由来抽出物を用いてトリパノソーマ原虫 <i>T.cruzi</i> に対する駆虫力を検証した。 ・ 評価を受けた点 中南米で流行するシャーガス病について、修業実習の一環としてエルサルバドルへ渡航し、医療と研究の frontline に触れた経験を生かして、創薬を目指した研究を行ったことが評価された。	第1回 顧みられない熱帯病 学生コンテスト (2024/1/30)	【大会概要】 毎年1月30日は、世界保健機関(WHO)が承認している「世界NTDの日」です。顧みられない熱帯病(NTDs)は熱帯病と名付けられていますが、日本との関連は少なくありません。一部のNTDsは依然として日本にも存在しています。また、日本政府だけでなく多くの企業や組織が、治療薬の開発や製造、研究など幅広い面から貢献しています。 本コンテストは若手にNTDsについて広く理解や関心を高めようことを目的としています。なお、国際的に展開される「世界NTDの日」関連イベントの一環として実施されます。 【主催】世界NTDの日・日本実行委員会* 【幹事】一般社団法人NTDs Youthの会 【協賛】公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金(GHIT Fund)、日本製薬工業協会、GR Japan株式会社  * NTDsの日・日本実行委員会 構成団体一覧 (12月1日現在)： 長崎大学熱帯医学研究所/日本顧みられない熱帯病アライアンス(JAGntd)、日本製薬工業協会、特定非営利活動法人SDGs・プロミス・ジャパン(SPJ)、一般社団法人NTDs Youthの会、特定非営利活動法人 DNDI Japan、公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金(GHIT Fund)、特定非営利活動法人 日本医療政策機構(HGPI)、一般社団法人日本熱帯医学会学生部会(J-Trops)、日本国際保健医療学会学生部会(jagh-s)、GR Japan株式会社、日本獣医学生協会(JAVS)、AMSA Japan
伴 奈菜加	ばん ななか	医学部医学科	右記の学会において行った発表(口述)が、優れた内容であると評価を受け「優秀演題賞」を受賞した。 ・ 標題「ナショナルデータベースを用いた自己免疫性水疱症の疫学分析」 ・ 国内の自己免疫性水疱症の疫学分析のため、Medical Data Vision社のデータベースを用いて、希少難治性疾患である自己免疫性水疱症の国内の大規模疫学データを世界で初めて比較解析した。その結果、今後の個々の症例の予後予測や治療選択の参考となる、それぞれの疾患の疫学、予後、治療経過が明らかとなった。国内最大の学会で4名しか選ばれない学生での優秀演題賞の受賞となるため、強く推薦するものである。われわれの大学では初である。	第132回日本皮膚科学会総会(2024年6月6-9日)	【大会概要】 年に1回行われる、国内最大級の皮膚科関連学会である。 【規模】 参加者数：8,800人 発表数：30件(ポスター発表含む) 受賞者数：4名
黒田 俊希	くろだ としき	生活科学部	右記のデザインコンペに応募した作品がグランプリを受賞した。 講評等は以下URL参照： https://luchta.jp/result/gakushika/c-con2023/	日建学院55周年！キャンペーンマーク・デザインコンペ (2023/10/20~12/20)	株式会社 建築資料研究社/日建学院の55周年を記念したキャンペーンマークのデザインコンペです。建築系学生を対象としたものでグランプリ1名、特別賞3名が選ばれます。応募人数242名。

【大阪府立大学】

氏名 Name	ふりがな Furigana	学部・学科 Faculty・Department 学域・学類 College・School 研究科 Graduate school	推薦理由・成績(功績の内容) Reasons for Recommendation	【学会等における受賞等の場合に記入】 国際大会または国内大会 International competition or National competition ／(開催年月日 date)	その他参考事項 Others ※学術誌であれば、タイトルや大会の規模・概要などを記載してください If it is an academic journal, please include the title, scale and outline of the conference, etc.
山本 航平	やまもと こうへい	工学域	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「独創賞」を受賞した。 ・ 標題「データ同化技術を用いた溶接配管継手のクリープ損傷デジタルツインシステム」 ・ 内容：データ同化技術を用い、火力発電所の配管の溶接部を含む余寿命推定デジタルツインシステムを開発し、誤差要因による影響についての検討を行った。 ・ 評価を受けた点：課題に対する理解、研究内容、プレゼンテーション、質疑応答	第20回 日本保全学会学術講演会/ (2024/8/5~2024/8/8)	【大会概要】 「日本保全学会発足時から議論を積み重ねてきた分野から、DX・AI技術のような最新の技術まで、安全性や省力化を推し進め、安定的な電源供給に寄与する保全の在り方・未来について考える」ことを趣旨として、8月5日~8日の日程で開催された。毎年一回開催され、本年度は東京大学駒場キャンパスとオンラインによるハイブリッド開催であった。 【規模】 応募者数：15人 独創賞受賞者数：4名
奥島 千尋	おくしま ちひろ	工学研究科	右記の学協会の表彰制度により、2023年6月発行のVol.131, Issue 6に掲載された本人がFirst Authorの以下の論文が、表彰対象の3件のうちの1件に選ばれ「Award of the Outstanding Papers Published in the JCS-Japan in 2023 (公益社団法人日本セラミックス協会 JCS-JAPAN優秀論文賞)」を2024年6月7日に受賞した。 ・ 論文タイトル "Preparation of Li <sub>4</sub> GeO <sub>4</sub> -Li <sub>3</sub> VO <sub>4</sub> based electrolytes via mechanochemical treatment" ・ Journal of the Ceramic Society of Japan, Vol.131 Issue 6 Pages 141-145 ・ Received: 2023/1/27, Accepted: 2023/3/6, Published: 2023/6/1		【概要】 年に1回、日本セラミックス協会(The Ceramic Society of Japan)が刊行する学術誌『Journal of the Ceramic Society of Japan(セラミックス)』の1月~12月号に掲載された報文の中から、特に優秀と認められる報文を毎年3件程度選考し表彰する制度です。 【規模】 受賞者数：3名



梅田 隼	うめだ じゅん	工学研究科	2023年に、日本船舶海洋工学会論文集、Journal of Marine Science and Technology およびその他関連分野の論文集において公表した論文の主著者として、独創的かつ優れた論文を発表した若手研究者であるとの評価を受け「日本船舶海洋工学会奨励賞（乾賞）」を受賞した。 ・受賞対象論文掲載論文集「日本船舶海洋工学会論文集 38巻 p. 117-125 2023年」 ・標題「ガウス過程回帰を用いた波力発電装置の運動モデルの構築」 ・内容「国内の新エネルギーの一つとして波力発電装置の実用化が期待されている。この波力発電装置の運動モデルは発電性能を向上させるための制御の開発や発電電力量の評価、最大変位の推定など、波力発電装置の経済性および安全性の評価に重要な要素である。しかし、その波力発電装置に作用する流体力の非線形性に加えて、機械摩擦および発電機のコギング力を完全にモデル化することは難しい。そこで、本論文ではガウス過程回帰を用いて、計測データから複雑な力学現象を考慮した波力発電装置浮体の運動モデルの構築に取り組んだ。」 ・評価の概要「本研究では観測ノイズ、機械摩擦および発電機のコギング力が存在する場合でも適用できるガウス過程回帰制御に基づく波力発電装置の正確な運動モデルを提案している。また水槽試験の計測結果と比較してモデル精度を検証している。ガウス過程回帰を用いたモデル化は、システム同定が困難な実機で非常に有効な手段となる。データサイエンスを用いた新たな研究分野の開拓にもつながる研究である。さらに著者らは長年にわたり波力発電装置の制御について取り組んでおり、今回の大きな発展もさることながら、過去からの継続的な努力が認められる。以上の理由により本論文は内容の評価が高く、推薦論文に選定した。（審査委員会資料より抜粋）」	令和6年 日本船舶海洋工学会 春季講演会（2024年5月27日）において受賞  日本船舶海洋工学会奨励賞（乾賞）	【日本船舶海洋工学会概要】 船舶及び海洋工学に関する学術技芸を考究し、船舶の性能及び安全性向上、並びに、海洋の開発利用及び環境保全を図ることにより、我が国の発展に寄与すると共に、我が国の国民生活の向上を図ることを目的とする。 学会員数：3,917（2024年7月時点） 【日本船舶海洋工学会奨励賞（乾賞）概要】 船舶工学及び海洋工学分野における若手研究者の創造的研究を奨励し、広く技術の発展を促すため、独創的かつ優れた論文を発表した会員を表彰する。 論文件数発表数：89件（日本船舶海洋工学会論文集およびJournal of Science and technology, Springerのみ） 受賞者数：4名（2024年度）
佐久間 哲	さくま さとる	生命環境科学研究科	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「Best oral presentation awards: Bronze Prize」を受賞した。 ・標題「Filtrates of acidophilic nitrified biogas digestates as a sustainable nutrient solution: enhancing hydroponic growth through pH-optimized phosphorus availability」 ・内容：生ごみ等の有機廃棄物を利用した循環型の食料生産システムを実現するために、微生物を使って生ごみからリンに富んだ液体肥料を生産する手法を開発し、既存手法よりも高品質で化学液体肥料と同等の液体肥料の生産が可能になった。 ・評価を受けた点：これまで化学液体肥料に依存していた植物工場のような次世代農業システムを、本手法を用いれば持続可能な生産手法にアップデートできる可能性が評価されたと感じている。	The 6th CIGR international conference (International Comission of Agricultural and Biosystems Engineering) / (2024/5/19-23)	【大会概要】 1930年から続く国際会議であるCIGRが、2004年から4年に1度開催している、農業工学分野に関する研究成果の発表、議論を行う世界規模の学会である。 【規模】 参加者数：700人 発表数：580件（39カ国からの参加者、ポスター発表含む） 受賞者数：3名（Gold, Silver, Broze）

<団体>

【大阪公立大学】

団体名 Name of Team	構成員氏名(代表者に○) Member's Name (Representative, ○) ふりがな Furigana	学部・学科 Faculty・Department 学域・学類 College・School 研究科 Graduate school	推薦理由・成績(功績の内容) Reasons for Recommendation.	【学会等における受賞等の場合に記入】 国際大会もしくは国内大会 International competition or National competition ／(開催年月日 date)	その他参考事項 Others ※学術誌であれば、タイトルや大会の規模・概要などを記載してください If it is an academic journal, please include the title, scale and outline of the conference, etc.
HELIOS2024	日紫喜 暁維 (ひしき あけい) 岡山 颯太 (おかやま そうた) 矢野 祥多 (やの しょうた)	情報学研究科  現代システム科学域  現代システム科学域	オランダ・アイントホーフェンで開催された右記大会において、本チーム（岡山理科大学と大阪公立大学の共同開発チーム）はサッカーシミュレーション2Dリーグに出場し、Soccer Competition部門において、優勝という成績を収めた。	世界大会 RoboCup2024/ (2024/7/15～2024/7/22)	【規模】世界規模の大会 ・参加チーム数：選抜された各国代表の10チーム（日本、イラン、カナダ、ドイツ、ブラジルなど） ・チーム名（ふりがな）：HELIOS2024（へりおすにせんにじゅうよん） ・他のチームメンバー：岡山理科大学・秋山 英久・講師